

最終試験結果の要旨	
学位申請者 氏名	Nurulnadia Binti Mohd Yusoff
審査委員	主査 鹿児島大学 教授 小山次朗
	副査 鹿児島大学 教授 板倉隆夫
	副査 鹿児島大学 准教授 宇野誠一
	副査 佐賀大学 准教授 上野大介
	副査 鹿児島大学 准教授 吉川 毅
審査協力者	印
実施年月日	平成26年7月29日
試験方法 (該当のものを○で囲むこと。) (口答) 筆答	
<p>主査及び副査の5名は、平成26年7月29日の公開審査会において学位申請者に対して、学位申請論文の内容について説明を求め、関連事項について試問を行った。具体的には別紙のような質疑応答がなされ、いずれも満足できる回答を得ることができた。</p> <p>以上の結果から、審査委員会は申請者が博士（水産）の学位を受けるに必要な十分の学力ならびに識見を有すると認めた。</p>	

学位申請者 氏名	Nurulnadia Binti Mohd Yusoff
<p>【質問 1】 Experiment1 で EDC をゴカイに暴露しているが、何故 E1 だけが検出されなかったのか。</p> <p>【回答 1】 おそらく E1 はすぐに代謝されたため、検出されなかったと考えている。</p> <p>【質問 2】 Experiment1 の L 区は k1, k2 と t1/2 が N.D だったのは何故か。</p> <p>【回答 2】 体内濃度が低すぎたため、計算ができなかった。</p> <p>【質問 3】 Experiment3 で EDC を添加した餌を投与しているが、マコガレイのオスを使用したのか、性別は区別したのか。</p> <p>【回答 3】 マコガレイの稚魚を使用しているため、性別による違いは除外している。</p> <p>【質問 4】 Experiment3 で対照区でもビテロジェニンが増加しているが、何故か。</p> <p>【回答 4】 詳しい原因はわからない。おそらく、自然環境由来の作用が原因か、海水を使用しているため、海水中の微量な EDC による作用でビテロジェニンが誘導された可能性が考えられる。</p> <p>【質問 5】 マコガレイの餌暴露による蓄積試験では餌を体重の 2% 相当量を投与していたが、吸収率実験では体重 5% 相当量を投与している。何故、投与量が異なるのか。</p> <p>【回答 5】 体内の蓄積濃度を高くしたかったため、投与量を増やした。</p> <p>【質問 6】 グルクロン酸抱合実験でビスフェノール A しか試していませんが、他の EDC についても同様の結果が得られるということでしょうか。他の EDC とグルクロン酸抱合体の構造式を把握したか。</p> <p>【回答 6】 十分に調べていないので、詳細はわからない。</p> <p>【質問 7】 EDC がグルクロン酸抱合されたのはカレイの代謝能によるものか、それとも腸内細菌などのバクテリアによる代謝の影響か。</p> <p>【回答 7】 おそらくグルクロン酸抱合はバクテリアによる作用ではないと考えられるが、詳しいことに関しては今回の試験からは分からない。</p> <p>【質問 8】 要旨の最後の行に「This is probably due to metabolism has biotransformed the compound into more」とあるが、この compound とは何を指しているか。</p> <p>【回答 8】 グルクロン酸抱合された EDCs を指している。</p> <p>【質問 9】 BMF は通常エサを用いた場合の計算であるが、餌と体内濃度の単位は何か。餌や生物中濃度は乾重量当たりで表現するのではないか。</p> <p>【回答 9】 現場の状況を可能な限り反映したいと考え、餌、体内濃度とも湿重量あたりで計算した。</p>	